

V. 特記事項

本学では、建学の理念、大学の目的、大学院の趣旨それぞれにある「社会に有為な人材の養成」、「応用能力をもつ人格を陶冶」、「文化の進展に寄与」を具現化するため、地域を基盤にした特色ある優れた研究成果を共有することで教員の資質向上と学生教育への還元を推し進めている。また、地域社会や学生のニーズの変化に応え続けるため、大学ブランディング事業を組織的に強化している。

1. 学園学術研究交流会の開催による研究・教育成果の共有

順正学園全体（吉備国際大学、九州保健福祉大学、順正高等看護福祉専門学校、九州保健福祉大学総合医療専門学校）の学問水準の向上と研究者の研究意欲の向上、また、若手研究者の養成を図るため、平成 16（2004）年度から平成 30（2018）年度まで「順正学園学術交流コンファレンス」を開催してきた。各専門分野の研究者が横断的に連携することで、新たな視点をもった専門性の高い学際的研究を期するとともに、順正学園設置校それぞれの特色ある創造的・先駆的研究を内外にアピールし、企業や学外研究機関等との共同研究や、産学連携の推進・研究の高度化を図り、地域の活性化に結びつけることを目的としてきた。15 回という節目を機に遠隔地開催のあり方を見直し、令和 3（2021）年度からオンライン形式で「順正学園学術研究交流会」として継続している。

2. 私立大学研究ブランディング事業の成果の共有

平成 29（2017）年度に私立大学研究ブランディング事業「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデル」に採択され、地域の 12 の課題解決を図った。

研究活動及びブランディング活動は、それぞれに学内及び学外の評価委員による検証を毎年度受けた。各研究課題の達成状況及びブランディング発信の成果は毎年報告書にまとめて全学的に共有し、地域貢献を志向した学生教育の実践を学ぶ機会とした。

3. 大学ブランディングの組織的推進

本学は、受験生に選ばれ続ける大学をめざして令和 2（2020）年度に学長直属の「ブランディング検討委員会」を設置し、開学 30 年において構築してきたものとこれから目指すものを精査し、大学ブランドビジョンを策定した。その際、タグラインについては全教職員の投票により決定した。

また、令和 3（2021）年度には学長を委員長とした「ブランディング実行委員会」を設置した。委員は各学科及び各部署の若手・中堅層を中心とし、職位を問わず優れた意見を改革に反映できる体制を構築して、毎月定例で開催した。ブランディング事業は「在学生」、「学外（主に高校生）」、「教職員」それぞれをターゲットとして推進した。「吉備国際大学コミュニケーションマーク」の選定は全教職員の投票に基づいた。ブランディング実行に当たっては委員以外の教職員も参画できる機会を設けた。教職員のスタッフプライドを高めるため、新たに統一のネームフォルダを作成し着用することとした。学生が大学により愛着をもちながら過ごせるように、在学生の声に基づく共用ワークスペースの整備を実施し、居心地の良い空間を増やした。